

2018（平成30）年度

大阪大学医学部医学科

学士編入学試験問題

【小 論 文】

問題冊子

（注 意）

- 1 問題冊子及び解答用紙は、試験開始の合図があるまで開いてはいけない。
- 2 受験番号は、解答冊子の表紙及び各解答用紙の受験番号欄に左詰めで、正確に記入すること。
- 3 問題冊子は、表紙を除き3枚ある。ただし、1枚目、3枚目は白紙である。
- 4 問題冊子又は解答冊子の落丁、印刷の不鮮明等がある場合は、解答前に申し出ること。
- 5 解答は、解答用紙の指定されたところに記入すること。枠からはみ出してはいけない。
問題冊子に解答を書いても採点されません。
- 6 問題冊子の白紙は、適宜下書きに使用してよい。
- 7 問題冊子は、持ち帰ること。

【小論文】 1 / 1 ページ

以下の【資料】を読んで、下記の【設問】に答えなさい。

【資料】

現在、腎臓の機能が低下し、末期腎不全に至ったために、血液透析などを必要とする患者の数は年々増加し、32万人を超えている。新規に透析が必要となる患者の原因疾患を調べてみると、糸球体腎炎の割合は減少してきており、1983年では60%を超えていたにも関わらず、2014年には17.8%に減少している。一方、糖尿病を原因とする患者の割合は増加しており、1983年では15%程度であったにも関わらず、2014年には43.5%に増加している（日本透析医学会「わが国の慢性透析療法の現況」http://www.jsdt.or.jp/overview_confirm.htmlより引用）。

厚生労働省が平成24年に調査した「国民健康・栄養調査」

<http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000032074.html>によると、糖尿病が強く疑われる者（糖尿病有病者）は約950万人、糖尿病の可能性を否定できない者（糖尿病予備群）は約1,100万人、合わせて2,050万人と推計されている。糖尿病が強く疑われる者と糖尿病の可能性を否定できない者を合わせた人数は平成9年以降増加していたが、平成19年の約2,210万人から初めて減少に転じた。しかし、現在治療を受けている者の割合は、男性で65.9%、女性64.3%に過ぎない。

透析医療には、一人当たり年間500万円、全透析患者では年間で1兆6千億円の医療費を要する。不摂生な食事により糖尿病などの生活習慣病が悪化したり、生活習慣病があっても治療をきちんと受けないために病気が重篤化したりするなど、患者自身がきちんと管理しないために病気が悪化したような場合にまで医療保険を使う人が多いために、将来の日本は医療費の負担で破綻するという「医療費亡国論」を唱える人も少なくない。自分の不摂生により病気が悪化したような場合でも、医療保険で適切な治療を提供すべきであると考える人がいる一方で、このような生活習慣病の悪化などに対して、国が医療費を支出するのは不適切であり、自己責任で対応すべきとする「自己責任論」を唱える人もいる。実際、日本の医療費の対GDP（国内総生産）比は2013年には10.2%となり、OECD（経済開発協力機構）加盟国の平均9.8%を大きく上回る。一方、2003年の医療制度改革により、医療費の自己負担割合は2割から3割へと引き上げられ、家計の負担は増加している。

【設問】

1. 上記のような生活習慣病の重篤化（透析導入や脳卒中発症など）に対する自己責任論に対して、あなたの考えを述べなさい。（句読点を含めて800字以内）

2. 生活習慣病の重篤化に対して、今後、医療はどうあるべきかについて、あなたの考えを述べなさい。（句読点を含めて800字以内）